

河北新報社「むすび塾」と連携し「ぼうさい探検隊」実施

～宮城・松島町児童館の子ども達が参加～

日本損害保険協会東北支部（委員長：鈴木 恵子・東京海上日動火災保険株式会社 常務執行役員）では、この度、河北新報社の防災ワークショップ「むすび塾(※1)」とコラボレーションし、宮城県松島町の松島町児童館に通う子ども達と当協会の防災教育プログラム「ぼうさい探検隊(※2)」を実施しました。

11月2日（土）に行われた探検は、あいにく雨の中でしたが、小学校1～5年生の児童40名が参加、児童館卒業生などの中高生10名にもボランティアとしてお手伝いいただき、3班に分かれてまち歩きを行ったあと、気づきをマップにまとめて発表しました。

まち歩きでは、災害発生時に危険な場所（ブロック塀や側溝）や避難場所を見つけたり、同日に行われた松島町の総合防災訓練を見学したりし、マップ作成や班ごとの発表を通じて、自分たちが普段生活しているまちの安全・安心についての認識を深めました。

当日は、元塩釜消防本部消防長で松島観光協会の志賀 寧会長から活動の総評があり、「自分の足で歩き、得た情報は非常に重要。自分たちのまちを知り、身を守る行動に繋げてもらいたい。」とコメントがありました。探検隊を通して、「災害が発生したときどうすれば命を守れるか」、子供たち自身で考え行動できるきっかけになったものと思われまます。

本探検隊の様子は、11月3日付けおよび11月13日付けの河北新報でも掲載されました。



まち歩きで避難場所を発見



松島観光協会
志賀会長からの総評



ボランティア学生からアドバイスを
受けながらマップを作成

(※1) むすび塾

河北新報社が主催しているワークショップ。東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、宮城県内外で地震、津波の際の避難の手法などを地域住民と一緒に考え、行動を後押しする取り組みを行っています。2012年からスタートし、今回で通算117回目。

(※2) ぼうさい探検隊

防災教育の取組みの一環として、子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、身の回りの安全・安心を考えながらマップにまとめ発表する、実践的な安全教育プログラム。2004年度から実施し、今回で第21回。自治体や行政等への提言により実際に危険箇所が改善された事例もあり、地域防災力向上の一助になっている。